

一般社団法人 日本脊椎脊髄病学会
平成 31 年度 第 1 回プロジェクト委員会
議事録

日 時 : 平成 31 年 4 月 19 日 (金) 午前 6 時 30 分 ~ 7 時 30 分
場 所 : パシフィコ横浜会議センター 5 階 511+512
(第 48 回日本脊椎脊髄病学会学術集会会場)

出席者 : 山下敏彦 (担当理事)、川上 守 (委員長)、井上 玄、海渡貴司、西田康太郎、宮腰尚久、山崎正志、山田 宏、若尾典充 (以上委員)、田口敏彦、持田讓治 (以上アドバイザー) 以上、11 名

欠席者 : 今釜史郎、寒竹 司、村上英樹、山田 圭 (以上委員)、新谷 歩、加葉田大志朗 (以上アドバイザー) 以上、6 名

【 議 事 】

報告

1. プロジェクト「慢性腰痛症に対する薬物療法の臨床経済研究」の論文の進捗状況

各担当者が現状の執筆状況に関して報告を行った。

共通する事項として、Figure や Table の作成に関しては、各担当者が新谷アドバイザー、加葉田アドバイザーと直接メールや web 会議、面談などで、適宜相談し、執筆を進めることとなった。Authorship として、本研究に関係した過去を含めた委員、アドバイザー全員を著者として掲載すること、また筆頭著者は論文執筆者とすることが確認された。投稿の際の承諾のサインに関しては、過去の委員など、直接の連絡が困難な共著者は、山下担当理事を通して連絡することとなった。投稿雑誌の選定に関しては、「1. 費用対効果」の論文を Journal of Orthopaedic Science (JOS) に投稿し、それ以降の論文の投稿先に関しては、筆頭著者が選定後、委員会メンバーで検討した上で決定することとなった。

以下、進捗状況

1. 費用対効果 (担当 : 海渡貴司)

費用対効果分析は、EQ-5D の変化を 6 ヶ月間の平均変化量として再算出を行った。費用対効果に関し、背景の違いが与える影響を効果と費用に分け算出した。結果資料はそろっており、早期に投稿前状態まで進めることとなった。

2. 薬剤各での効果の違い（担当：井上 玄）

加葉田アドバイザーとデータを検討し、6 期まで薬剤変更を行わずに完遂した群を対象にした薬剤効果が提示された。ドロップアウトを含めないとその時点でバイアスがかかるのではないかとの意見があった。新たな対象群で 1~6 期全ての数値をグラフ化するか否かを含め、今後検討することとなった。

3. 患者背景による予後因子（担当：今釜史郎、村上英樹）

川上委員長より、今釜委員作成のスライドに則り、説明があった。

Figure と Table は全ての項目を示す。“神経障害性疼痛治療薬”や“トラムセット”、“弱オピオイド”など、term を統一することとなった。

4. 診察時間と治療効果・精神要素との関連（担当：宮腰尚久）

昨年、加葉田アドバイザーとデータを検討し、論文の方向性を定めた。検討項目のなかで明らかに有意差のあるものがなかったため、傾向があるものを結果として論文化する予定である。

5. 合併症、Lab data と治療効果の関連（担当：西田康太郎）

加葉田アドバイザーと直接面談の上、解析の追加や方向性の確認を行った。腎障害に関して、Cr と BUN の解析からはロキソニンの腎障害傾向を認めたと、累積用量依存性ではなかった。一方、セレコックスでは累積用量依存性に BUN の上昇を認めた。eGFR のデータを追加したが、意味のあるデータを得られず、論文内容には含めない。肝障害に関して、トラムセットで累積用量依存性の ALT 上昇を認め、慢性肝障害の可能性が示唆された。アセトアミノフェン単剤では顕著な変動を認めず、トラマドールが影響している可能性を考える。以上の内容を中心に論文執筆中(神戸大学・由留部先生が筆頭著者)。本年夏頃には投稿前状態まで進める予定。

議題

1. プロジェクト「頸椎由来の頸肩腕症状に対する薬物療法の臨床経済研究」について

本学会の倫理委委員会で再度議題としてご検討いただく予定であることが委員長より報告された。今後の研究は若尾委員が主導して引き継ぐことが承認された。また、前回のプロジェクト研究と同様、研究参加医師の症例登録に関し、1 例につき 1 万円を支払うこととなった。

2. 次回開催

第34回日本整形外科学会基礎学術集会（2019年10月17・18日）の会期中、開催場所であるパシフィコ横浜で開催予定。

文責：井上 玄